

2018年第2回集団交渉

中小企業・労働者を地獄に引きずり込む策動を許すな!

利権の独占狙う4人組(地神・大山・矢倉・木村)とそれにしがう建交労・産労



関西生コン関連労働組合連合会(以下、労組連合会)全港
 大阪支部・近庄労組・連帯労組関生支部)は3月15日、学働館・
 関生で18春闘第2回集団交渉を開催した。

落ちぶれた労組、4人組にすり寄る

労使関係をリセット 産労・建交労は確認

冒頭、労組連合会の武議長
 が以下のように発言した。
 「私たち労組連合会は3月
 11日に自動車パレードを開
 催し、256台、700人が結
 集した。同日、建交労・生
 産労もパレードを行った。こ
 ちらは4人組に協力してもら
 い、組織企業からも車両を
 出してもらったが100台も



なかつた。
 そして、その日の夕方に神戸
 で開催された大阪広域生コン
 クリート協同組合(広域協組)・
 和歌山県広域生コンクリート
 協同組合による連合会設立決
 起集会には、建交労・生コン産
 労の役員・組合員が動員され
 ている。集会のなかで岡本幹郎
 氏が関生支部を誹謗中傷した
 そうだ。

また、本日、彼らも集団交渉
 を予定している。聞くところ
 によると、そのなかで、「これまで
 の労使関係をリセットする」こ
 とを確認するといふ。これはま
 さに、私たちが50年以上かけて
 獲得してきた様々な権利を差
 し出すことに他ならない。4人
 組とそれに従属している一部

大阪広域協組の方針 利権確保で誤った道

中小企業にとっても、労働者
 にとっても、生き残る道はこれ
 しかない。4人組やそれに従属
 している一部労組はこの路線
 を否定している。4人組の利権
 を確保するために誤った道を選
 択しているのだ。」

私たちが春闘において追求
 する基本路線は、中小企業間の
 競争を抑制するということだ。
 個社がバラバラの状態では際
 限のない生コン値下げ競争に
 陥ってしまう。縦の構造から横
 の構造へと変えるということ。
 そして、セメントメーカー・ゼ
 ネコンとの対等取引を実現す
 る。そのために協同組合に結集
 し、共同受注・共同販売・シェ
 ア運営を行う。

労使は配分を巡って対立す
 るもの。その対立を乗り越える
 には、共通の目標に向かって共
 同行動を行うことが必要だ。そ
 して、中小企業の利益を確保し
 たうえで労働者の賃金・労働
 条件の向上をはかる。

(2面に続く)

関西生コン関連労働組合連合会 (全港湾大阪支部・近庄労組・関生支部) 大阪市西区川口2-4-28 Tel.06(6583)5546

18春闘共同ニュース

2018年
3月16日号

春闘のなかで

広域協組の正常化を勝ち取ろう!

私利私欲を優先に多数の者を犠牲にするやり方

さらに、議長は「一昨年の段階で、私たちは現在のような状況に陥ることを予測していた」として次のように続けた。

**手放したくはない
一度手にした利権**

「広域協組が組織率を上げ、組織が大きくなれば、そのなかで一部の者が私利私欲を追求し、その他の多数の者を犠牲にすることが目に見えていた。私たちはそ

うなってはならないと以前から何度も指摘してきた。『6項目』を提言したのも同様の理由だ。ここに書かれている内容は誰が見ても当然と思うものばかりだ。しかし、一度手にした利権を手放したくない4人組にとって『6項目』は受け入れられない内容。だから、彼らは自らの醜い本性を隠すために関生支部に対する誹謗中傷の大キャンペーンを始めた。これが事の本質ではないか。

広域協組のなかで4人組は自分たちの言うことをきかない協組員に対して『出荷割付を止める』と恫喝。多々の協組員はそれに屈して、彼らにしたがっている。していることになる。

しかし、2月にはTYK高槻生コン社がこれに異議を申し立てる仮処分申請を行うなど反撃が始まっている。ここで人事を刷新してまともな執行部体制を確立することが望ましいが、それが困難な場合には別の方策を追求し、業界の正常化をはからなければならぬ。

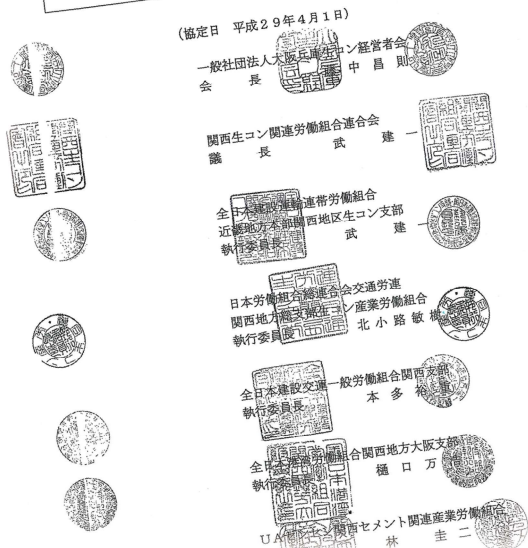
過去の合意事項は 脱退社にも履行義務がある

具体的回答は次回以降

続いて、大阪兵庫生コン経営者会の門田会長が「広域協組による、連帯労組の日々雇用労働者・『連帯系』の輸送会社の排除については正当な理由に基づくものではなく、一方的な行為である。経営者会として遺憾の意を表明する」と発言した。

さらに、同じく経営者会の島田副会長は「労組連合の島田副会長は「労組連合

平成29年度 春闘要求に関する協定書



次回交渉は3月22日に開催される。